

## 5年1組 道徳科学習指導案

平成30年6月28日5校時

- 1 主題名 自分に誠実に A- (2) 誠実・明朗
- 2 教材名 見えた答案 (東京書籍)
- 3 主題設定の理由

### (1) ねらいとする価値について

本主題は、正直で陰ひなたなく、常に明るく誠実に行動しようとする態度を養うことをねらいとする。誠実・明朗とは、誰も見ていない所でも誠意を持って嘘をつかず、私利私欲をまじえずに真心をもって人や物事に対することである。つまり、どんな場面でも自分自身の良心・善意に対して正直に行動することが、より明るい心となって表れ、真面目さを前向きに受け止めた生活を大切にし、自己を向上させることにも繋がっていく。

### (2) 児童について

本学級の子どもたちは、楽しい学級をつくりたいという意欲が高く、善悪の判断がしっかりでき、誰が見ても良くない行いに対しては、不当性を見逃さずに訴えることができる。しかし、目先の利益にとらわれて、周囲の人の気持ちや後の事を考えずにうっかり行動してしまう傾向も強く、決められたルールを無視したり、掃除や係活動で手抜きをしたりして、きちんとしている友達を不快な気持ちにさせることもある。自分には「ちょっとくらい良いだろう、このくらいならばれないだろう。」という甘い心が働くが、他者がずるやごまかしをすると許せないという児童も少なくない。このような子どもたちにとって、自分自身の弱さを認めつつ良心・善意に対して正直に行動することが、より明るい心に繋がること、みんなとの楽しい生活の実現に繋がることを実感させたい。

### (3) 資料について

本資料は、主人公の花子が算数のテストで不正をしてしまう物語である。家族の看病で十分な準備ができないままテストに臨んだ花子は、解けない問題を目の前にして、どうしても解きたい気持ちと焦りからつい友達的答案を見てしまう。翌日テストが返却され、答案は満点だったものの、花子の心は罪悪感と惨めな気持ちでいっぱいになり、「こんなことは、もう二度としてはいけない。」と反省するといった内容である。テストの緊張感や焦り、ずるをして嘘をついてしまったときの後悔などを花子の思いを考えることで模擬体験することができる。よって、ずるをしたりごまかしたりしないという心情を育てることができる本資料は、ねらいを達成する上で有効な資料であると考えられる。

### (4) 指導にあたって

導入では、「ずるやごまかしはしない方が良い」と思っているのに日常生活で実行できていない現状を、事前アンケートの結果から実感させ、誠実であるための心について考えようという本時のめあてに繋げていく。展開では、まず、前日に家庭の事情で勉強ができなかった花子の気持ちを共感させ、最後の1問が解けないもどかしさや解きたいという欲を表出させる。次に、よし子の答案を「思わず見てしまった」時の花子の心情に寄り添わせる。利害にとらわれて誠実な行動ができなくなる心、つまり、人間としての弱さが自分の心の中にあることに気付かせたい。そして、返却された満点のテストを見ている時の花子の心情について考える。ここではハート図(相反する2つの気持ちの割合を可視化できるようにしたもの)を用いて、満点だったことを「喜ぶ気持ち(ピンク)」と、「喜べない気持ち(青)」に焦点を絞り比較する。全体交流を通して、「喜べない気持ち」の中に、不安・罪悪感・良心の痛み・自責の念など様々な理由があることに気づかせる。最後に、誰にでも弱い心はあるが、その心に従って誠実な行動ができなくなってしまうと、最終的には自分ももっと苦しい結果になるということを板書で確認して本時のねらいとする道徳的価値を把握させたい。終末では、日常で花子のようにずるやごまかしをしてしまった経験や、誠実に行動できて気持ちが良かった経験を想起させ、自分の人間としての弱さを認めながら、なお誠実に生きていこうとする意識の高揚をねらいたい。

### (5) 伝え合い、認め合う授業の手立て

自己の感情に気づき、見つけ、分析して他者へ説明できるようにするために、不正をして満点を取った時の心情をハート図を使って可視化できるようにする。それによって、自分と他者の考えの違いがはっきりするため、違った意見やその理由を自分の考えと比較しながら聞くことができると考える。また、全体交流後に自分の考えをハート図に表すことで、自分の気持ちの変化とその理由もはっきりすると考えたからである。

(6) 理解深化にあたって

悪いことだと感じていても、それを認めて誠実な行動をとることができないことがあるのはなぜかを、人間の心理面からさらに深めて考えていく。その行動のもたらす利益を喜ぶ気持ち（ピンク）と、いけないことだという感覚（青）が葛藤しているとき、人間はその葛藤を解消して心の安定を得るために、合理化（このような行動を正当化するような理由）を無意識的につくり出してしまう傾向がある。

合理化は、葛藤や欲求不満を解消するための広い概念であり、イソップ物語の「すっぱいブドウ」の逸話に代表される（高い木にあるブドウがとれずにくやしい思いをしたキツネが、「あのブドウはどうせすっぱいのさ」と言ったという。）しかし、悪いことをして良心の呵責をもっているときにも使われる。これは、ピンクにとって強力なサポーターとなり、「実は自分は悪くなかった」「だれでも当然そういうことをするものだ」というような開き直りを生んでしまう。

この概念を説明したあと、具体的に、今回のカンニングの例で、どのような合理化が起こりうるかを、子どもたちに案として出してもらおう。さらに、それを克服して正しい行動をとるには、どうするとよいかまで考えたい。

4 ねらい

主人公の誠実でない行動の理由を考えることを通して、利害にとらわれず誠実に行動することの大切さについての理解を深め、明るく誠実に行動しようとする心情を育てる。

5 展開

	教師の説明・発問	予想される反応、困難度査定（●） 指導上の工夫・留意点（○）
導入 (3分)	<p>1 アンケート結果を提示し、「ずるやごまかしはしない方がよい」と思っているのに、日常生活でできていないという現状に気づき、問題意識を高める。 【②自己を見つめる】</p> <p>2 「誠実」の意味を教える。 ・誠実とは、だれも見えていなくてもずるやごまかしをせず、真心をもって正直に行動すること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>◎誠実に行動するのが難しいわけを考えよう。</p> </div> <p>【①道徳的価値についての理解】</p>	<p>○自分たちの「ずるやごまかし」について実態を知っておく。 ・ずるやごまかしはしないほうがよい。 ・ずるやごまかしをしたことがある。 ・なぜ、ずるやごまかしをしてしまったのか。</p>
教える (12分)	<p>3 資料を読んで、主人公（花子）の心情を出し合っ て教師がハート図に整理していく。</p> <p>・返却された満点の答案を見つめながら、花子はどんなことをうれしいと思ったかを発言させる。</p> <p>・願っていたことを手に入れたのに、喜べない気持ちを発言させる。</p> <p>4 「葛藤（かっとう）」の意味を教える。 ・葛藤とは、二つの相反する気持ちが争って、迷ってしまう状態のこと。</p>	<p>●花子の気持ちを想像しにくい児童がいる可能性がある。</p> <p>○罪悪感や罪の意識も考えさせるために、よし子さんの言葉や挿絵を提示する。 ・やったー。満点だ。 ・お母さんにほめられる。 ・ずるをしてとった点だ。これでいいのか。 ・ばれなくても、悪いことをした気持ちで苦しい。自分で自分が許せない。 ・悪いことをしたという気持ちがずっと消えないだろう。 ○喜ぶ気持ち（ピンク）と喜べない気持ち（青）を板書でまとめ、考えを整理する。</p>

<p>考えさせる (25分)</p>	<p><b>理解確認 (7分)</b> 5 自分なりにメモを書き込んでワークシートのハート図にまとめ、それを使って、グループの友だちに、花子の葛藤がどういうものであるかを説明する。 できれば、1～2名発表してもらおう。</p> <p><b>理解深化 (18分)</b> 6 悪いことを認めて誠実に行動できないのは、心の中に「言い訳サポーター」がいることを伝え、今回の花子にどのような言い訳がありうるかをグループで出し合う。(グループ討論、発表) 8分</p> <p>7 言い訳サポーターを撃退するにはどうすればよいか(教師からの補足説明): 正体を見破られると弱い。(言い訳にすぎないことの自覚) 5分 【③物事を多面的・多角的に考える】 T1(花子役)とT2(言い訳サポーター)が寸劇として演じる。 「君は別に悪くないのだ。…………… 同じような場面なら、誰でもすることだ」 「なるほど。悪くなかったのかも。 う～ん。待てよ。やっぱりおかしい。 お前は、言い訳サポーターだろ。」 「ばれては、しかたない。さらばじゃ。」</p> <p>8 言い訳サポーターを撃退して葛藤状態に戻ってしまったら、どうすればよいだろうか: もうやってしまったことだが、たとえば「誠実に謝る」。だれに? (グループ討論、発表) 5分 【③物事を多面的・多角的に考える】 正解があるわけではない。他者の意見も聞いた上で、自分の考えを深めることを促す。</p>	<p>● 言い訳を考えつかない児童がいるかもしれない。</p> <p>○ 交流したことを板書に残す。出てこない場合、教師からも補足する。</p> <p>・ 家族の看病で忙しかったのだから。 ・ 普通なら、その問題はできたはず。 ・ 一度くらいそういうことをしてもたいしたことではない。</p> <p>● 「謝る」という選択肢は出にくいかもしれない。</p> <p>○ 教師から提示でもよい。 ・ 友達に? 先生に? 親に?</p>
<p>振り返る (5分)</p>	<p>9 誠実に生きることについて、これまでの自分を見つめたり、今日の学習を通して考えたりしたことをまとめる。 【①道徳的価値についての理解】 【④自己の生き方について考えを深める】</p>	<p>○ 板書全体を振り返りつつ、自分にとってどのように考えが深まったかを内省するよう促す。時間があれば発表の時間をとる。</p>

6 評価

誠実に行動することの大切さと難しさが分かり、葛藤を乗り越えて誠実に行動しようとする意欲を持ったか。

## アンケート

名前 ( )

☆「ずるやごまかし」はしないほうがよいと思いますか。

はい

いいえ

・それはなぜですか。

☆これまで、「ずるやごまかし」をしたことがありますか。

はい

いいえ

「はい」に○をした人へ

・どんな時に、なぜずるやごまかしをしたのですか。